

2025 年度 JBA 公認 B 級審査会

参加審判員 各位



B 級審査の結果について（報告）

審判委員会インストラクター部会

部会長 芳賀 聡

2025 年度 JBA 公認 B 級審査会に参加された審判員の皆さん大変お疲れさまでした。

先日の県総合スポーツ大会において審査を行いました。今年度は 35 人の方が参加され 20 人の方が合格されました。合格された方は本当におめでとうございます。

今年度の合格者は、U12 部会から 11 人、U15 部会から 2 人、U18 部会から 5 人、社会人連盟から 2 人、そして男性 15 人、女性 5 人という内訳になっています。合格者の顔ぶれを見ますと、例年と比較しまして長年にわたり各カテゴリー、各地区で活動されてきたベテランの方が多かったと考えています。そして、女性が例年より多く合格されました。また、U12 部会所属の方が半数以上占めていました。所属、年齢、性別にとらわれることなく多くの方が B 級昇格を目指して研鑽を積み重ねられた結果であると受け止めています。

一方で、今回、残念ながら不合格だった方には、ぜひ、諦めることなくトライしていただきたいと考えております。

今年度の審査会を通して私たちインストラクターが感じたこと、そして、今後皆さんに取り組んでいただきたいことなどを 3 点に絞ってお伝えします。今後の活動の参考にしていただければ幸いです。

まず、今年度も県大会を主審として任せることができる力を有しているかどうかを基本的な基準として審査を行いました。参加された審判員の中には、普段吹き慣れないカテゴリー、レベルのゲームを担当していつも通りの力を発揮できなかった方もいると思いますが、審査会に向けては、普段から多くの機会を求めて幅広く活動することが求められます。できれば U18 以上のカテゴリーのゲームを数多く経験したうえで臨んでください。この経験の差が今回の審査会ではコート上で明らかになったものと考えます。どのカテゴリーのゲームでも主審として落ち着いてコートに立つことができるよう日頃から研鑽を重ねてください。

次に、これも昨年度と同様ですが、判定力の有無が結果を大きく左右したと考えています。

吹く、吹かない含めて、コート上で瞬時に判断し、決断できるかどうかが問われました。私たちインストラクターは、皆さんの普段の姿勢、努力を想像することはできても、やはりコート上での結果のみで判断せざるを得ません。ルール、メカニクスを理解したうえで、コート上で吹くべきものを吹く、吹く必要のないものを吹かない、こうした当たり前のことをシンプルに出来ているかどうかを見極めて合否を決めさせていただきました。

最後に、ここ数年間の参加審判員の皆さんのプレゼン、メカニクスは着実に向上しています。特に、3POに求められている動き、位置取り、ジェスチャーなどのプレゼンについては、かなり浸透していると感じました。一方で、県内の地区、県大会においては、依然として2POで行われるゲームが多いことも事実です。今回の審査会も2POで行われましたが、3POのマニュアルと上手く使い分けできていない方が多かったです。具体的には、トレイルにおいては、定位置からロートレイルへの動きや3のエリアのプレイを見るためのミドルラインまでの動きが少なく、定位置あるいはハイトレイルにとどまったまま判定する方が多かったです。また、リードにおいては、右側のローポストでの1on1を見に行かない方やレフェリーディフェンスの意識を持って右側に1、2歩でも移動して良いアングルを求めようとする動きが足りない方が多かったです。3POと異なり2POにおいては、足を使ってより多く動き、良いアングルを確保し続けることが求められます。二つのマニュアルを習得する困難さがありますが、ぜひ、それぞれの特徴を理解し、コート上で使い分けしながら実践できるよう研鑽を重ねてください。

B級のライセンスを取得するという事は、今までであれば意識する必要のなかった細かいことも意識してゲームに臨む必要があります。それだけ責任が大きい立場になりますが、一人でも多くの方にB級審判員になっていただき審判の醍醐味を実感していただきたいと考えています。その結果として、福島県の競技力向上につながり、さらにはA級、S級審判員を目指す方がその中から出てくるというのが私たちインストラクター部会の願いでもあります。

審判員の活動は、報われないことも多く、負担も大きいかと思いますが、多くの審判仲間と切磋琢磨することを通して皆さん自身が成長できる場になることを願っております。

今後もチーム福島の仲間として一緒に頑張りましょう。